



### ③ 児童・生徒のスポーツ活動実施状況

運動系の習い事をしている割合は、小学校男子児童が67.9%、女子児童が49.8%、中学校男子生徒が89.5%、女子生徒が65.7%、高等学校男子生徒が74.7%、女子生徒が36.8%となっています。女子に比べ男子の割合が高くなっています。

#### —スポーツ活動実施調査—

小学校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	男子	255	257	248	297	256	262	1,575
	女子	260	258	257	274	246	272	1,567
	計	515	515	505	571	502	534	3,142
運動系の習い事をしている児童(人)	男子	146	167	166	227	193	171	1,070
	女子	114	127	135	154	129	121	780
	計	260	294	301	381	322	292	1,850
運動系の習い事をしている割合(%)	男子	57.3	65	66.9	76.4	75.4	65.3	67.9
	女子	43.8	49.2	52.5	56.2	52.4	44.5	49.8
	計	50.5	57.1	59.6	66.7	64.1	54.7	58.9

中学校		1年	2年	3年	合計
生徒数	男子	248	281	246	775
	女子	264	235	229	728
	計	512	516	475	1,503
運動系の習い事をしている生徒(人)	男子	240	250	204	694
	女子	172	169	137	478
	計	412	419	341	1,172
運動系の習い事をしている割合(%)	男子	96.8	89	82.9	89.5
	女子	65.2	71.9	59.8	65.7
	計	80.5	81.2	71.8	78.0

高等学校		1年	2年	3年	合計
生徒数	男子	282	242	251	775
	女子	199	184	174	557
	計	481	426	425	1,332
運動系の習い事をしている生徒(人)	男子	222	185	172	579
	女子	71	76	58	205
	計	293	261	230	784
運動系の習い事をしている割合(%)	男子	78.7	76.4	68.5	74.7
	女子	35.7	41.3	33.3	36.8
	計	60.9	61.3	54.1	58.9

※平成25年度

### ④ まとめ

各学校でさまざまな取組みを行い、その結果「運動系の習い事をしている児童・生徒の割合」は高くなっています。しかし、山口県・全国平均と比べて、運動能力では多くの項目で下回っています。また、高等学校では、「運動系の習い事をしている生徒の割合」が中学校に比べ、男女とも大きく下がっています。各学校で体育の授業などを通じ基礎運動能力向上を図り、運動系部活動の内容をさらに充実させ、運動能力の向上を図ることが求められます。高等学校に進学後もより多くの生徒が運動を続けるための工夫も望まれます。





## 第4章 施策の方向性

### 1. ライフステージごとの施策の方向性

#### 幼 児 期（3歳～就学前）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
遊びを通じて体を動かす楽しみを覚える時期であり、様々な「する」「観る」の体験をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座</li> <li>・ 市民への啓発</li> <li>・ キッズ運動教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動講師を派遣し、教諭や保育士に幼児の運動を指導</li> <li>・ スポーツイベントで、親子で楽しむスポーツの紹介・啓発</li> </ul>

#### 学 童 期（小学生）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動を楽しむとともに、スポーツのフェアな精神、礼儀、マナーを学ぶ時期であり、基礎体力や運動能力をつけ、スポーツ体験の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の体力強化</li> <li>・ スポーツ活動の啓発</li> <li>・ 運動の安全対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもスポーツの提供充実</li> <li>・ 学校活動にて基礎体力の強化</li> <li>・ トップアスリート交流の推進</li> <li>・ 救急救命の指導（教師など）</li> </ul>

#### 思 春 期（中学生・高校生）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
スポーツを通じて、体力、精神力、運動能力が急激に高まる時期であり、生涯にわたってスポーツを行う習慣を身に付けるとともに、技術を磨き、競技などでの活躍を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動系部活動の強化推進</li> <li>・ 学校外スポーツ活動</li> <li>・ 大会参加などの推進</li> <li>・ 運動の安全対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ機会の提供</li> <li>・ 競技スポーツなどの推進</li> <li>・ 運動における安全対策</li> <li>・ トップアスリート交流の推進</li> <li>・ 基礎体力づくり支援</li> <li>・ 運動能力の向上</li> <li>・ 救急救命の指導</li> </ul>





### 青年期（18～39歳）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動能力が高く、楽しむスポーツや競技スポーツを行う時期であり、子どもを持ち、スポーツを楽しむことを次世代に伝える時期でもある。これらの支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動教室</li> <li>・スポーツイベント</li> <li>・スポーツ情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下松市スポーツ情報の提供</li> <li>・運動施設利用促進</li> <li>・働く世代に対する支援</li> <li>・親子運動教室の開催</li> <li>・救急救命の指導</li> </ul>

### 中年期（40～64歳）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
運動による生活習慣病の防止や、スポーツを通じて生活の質を高める時期であり、地域スポーツでの交流や支援をしやすい体制を構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動教室</li> <li>・スポーツイベント</li> <li>・スポーツ情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下松市スポーツ情報の提供</li> <li>・スポーツにおける相談体制整備</li> <li>・ボランティア情報の発信</li> <li>・働く世代に対する支援</li> <li>・特定保健指導などとの連携</li> <li>・救急救命の指導</li> </ul>

### 高齢期（65歳～）

基本的方向性	主な施策	行政などの支援
生活習慣病の予防や介護予防においてスポーツが果たす役割が重要な時期であり、運動や支援活動ができる時間も増え、地域貢献の担い手となってもらうべく支援をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動教室</li> <li>・スポーツイベント</li> <li>・ボランティア研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下松市スポーツ情報の提供</li> <li>・スポーツにおける相談体制整備</li> <li>・ボランティア情報の発信</li> <li>・介護予防事業などとの連携</li> <li>・ニュースポーツの推進</li> <li>・救急救命の指導</li> </ul>





## 2. 下松らしさを活かした施策の方向性

### (1) 我がまちスポーツの発展

項目	歴史背景	推進施策の方向性
ハンドボールの推進	下松市が昭和38年に国民体育大会のハンドボール競技を開催した。昭和54年には、下松中学校ハンドボール部が全国制覇、昭和56年、平成2年、4年に下松工業高校ハンドボール部が全国制覇、平成23年、24年に、華陵高校女子ハンドボール部が全国制覇するなど、大いに市民に誇りをもたらしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我がまちスポーツであることの周知</li> <li>・トップ選手との講演会・交流会の推進</li> </ul>
バドミントンの推進	昭和44年に下松市スポーツデーを制定した際に、バドミントンを推奨し、市民親子バドミントン大会の開催や、全国トップレベルの選手を招いた大会や技術指導などを行い、競技人口の底辺を広げてきた。現在でも、毎年全国レベルの大会に選手が下松市から出場している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合の案内や試合結果などの情報提供</li> <li>・用具の整備</li> </ul>

### (2) 自ら手軽に行うスポーツの支援

項目	現状	推進施策の方向性
ウォーキングの推進	「下松スポーツ公園」のラバーコースで多くの市民がウォーキングを楽しんでいるほか、市内各所でウォーキングをしている人をよく見かける。市では、気軽にできるスポーツの啓発として、年1回ウォークラリー大会を実施している。最近では、ノルディックのストックを持つ人も少し見かけるようになってきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれでも、どこでも、いつでもできる健康づくりのスポーツとしてのウォーキングを推奨</li> <li>・「下松スポーツ公園」のラバーコースの周知</li> <li>・ひざへの負担も少なく、全身の運動となるノルディックウォーキングの普及</li> </ul>
水泳（プール）の推進	屋内温水プールが整備されており、水泳教室が実施されている。市でも、小学生を対象として水泳の短期教室を毎年行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プール施設案内の充実</li> <li>・プール利用体験の促進</li> <li>・水泳指導者の育成</li> </ul>





(3) 下松らしいイベント

項目	現状	推進施策の方向性
市民体育祭の推進	昭和 25 年から開催し、現在はソフトボール・ラージボール卓球・ソフトバレーボール・グラウンドゴルフ・ゲートボールを開催しているが、出場者が高齢化し、チームが作れないところもある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館対抗方式の検討</li> <li>・競技種目の見直し</li> <li>・レクリエーションスポーツの導入</li> <li>・ボランティア制度の導入</li> <li>・報道機関との連携による周知</li> </ul>
下松駅伝競走大会の推進	昭和 21 年から開催し、当時は、市内を一周していたが、交通の諸事情により、現在の久保・花岡地区周辺をコースとして行っている。中学、高校、女子、一般の4部門に分け、7 区間 20km 程度を競走している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数、交通事情を考慮したコースの柔軟な変更</li> <li>・ボランティア制度の導入</li> <li>・市内企業への積極的参加の呼びかけ</li> <li>・報道機関との連携による周知</li> </ul>
レクフェスタの推進	下松スポーツ公園体育館完成の記念行事として平成 20 年から始まった。レクリエーションスポーツの目玉としてのアジャタ（競技玉入れ）を中心に長なわとびなどの大会を行っているが、近年参加者が減少傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技種目の見直し</li> <li>・各地域公民館などを通じたアジャタ（競技玉入れ）の普及</li> <li>・報道機関との連携による周知</li> </ul>

(4) 下松らしいしくみづくり

項目	現状	推進施策の方向性
スポーツボランティアの登録推進	スポーツイベントがあるごとにスポーツ推進委員が各地域で市民に協力を要請しボランティアを募っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録制度の周知</li> <li>・ボランティア内容の明確化</li> <li>・ボランティア名簿整備</li> </ul>
企業との協働によるスポーツ推進	市内の企業との連携により、トップアスリートの招へいなどのスポーツイベントが開催されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携によるスポーツイベントの継続</li> <li>・市のイベントへの参加促進</li> </ul>

